

C-56 和服の着付に関する人間工学的研究—肌着の着くずれに及ぼす影響—  
大阪薫英女短大 三浦美子

目的 前報(1969年11月日本家政学会関西支部会発表)の調査結果に基づき、着装中に  
おこる着くずれを防ぐ方法を発見するために、比較的長時間着くずれないと思われる  
婦人約40名に対し、聞き取り調査を行ったところ、和服を着用する場合は、全員が肌  
じゅばんを用いるという事であった。そこで、肌じゅばんとメリヤスシャツとを着用させて  
、肌着の着くずれを防ぐ効果を、人間工学的に比較研究した。

方法 長着(トリアセテート85% ポリエステル15%)の肌着として、1.肌じゅばん、2.  
メリヤスシャツ(ルーズなもの) 3.メリヤスシャツ(体にフィットするもの)の3種類を、被験者3  
名によりそれぞれ着装して、高さ41cmのステップ/か所、高さ18cm、蹴込み27cm(20段の  
階段を昇降、距離約55mを1単位として、歩中約40cmで10周、歩中60cmで1周、所要  
時間は分30秒±30秒で歩行し、その結果のずれ寸法を計測し、又着くずれ状態の写真  
撮影も行い、被験者自身からも着装中の感想を聞き取り、評価した。

結果 3名の被験者により、実験結果にそれぞれ個人差がみられた。しかし3名の  
ずれも、3種の肌着を比較すると、肌じゅばんの場合の着くずれが最も小さく、メリ  
ヤスフィットシャツが最も大であった。又着装中、メリヤスフィットシャツは汗ばみ、不快感が大  
きく、肌じゅばんは、肌に着くことがないため、爽快であると答えている。